

8 ICT利活用の推進について

(1) 「あらゆる人が暮らしやすい社会」について重要なこと

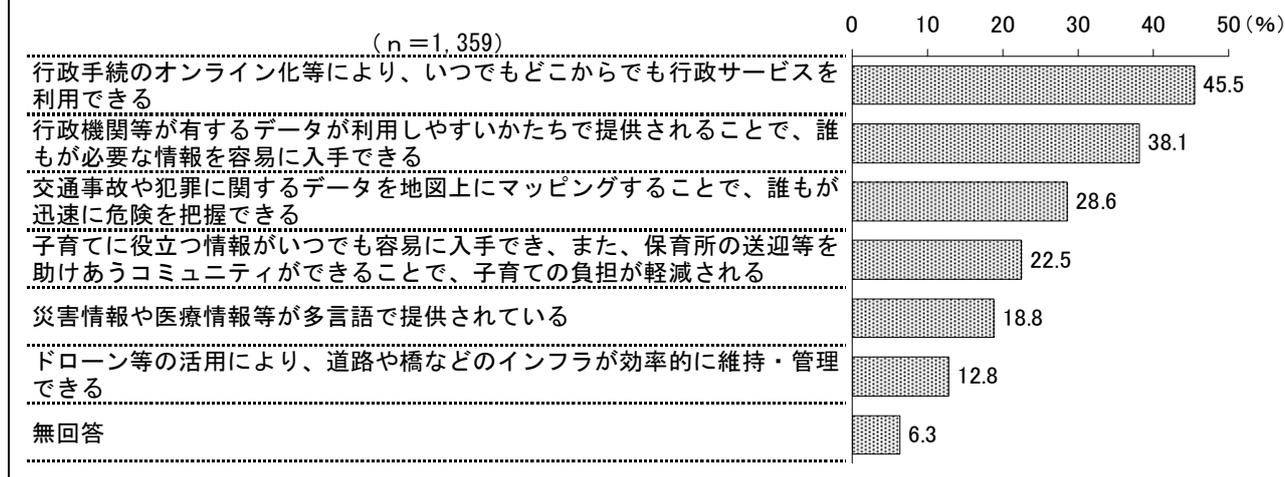
◇「行政手続のオンライン化等により、いつでもどこからでも行政サービスを利用できる」が4割台半ば

県では、人口減少や少子高齢化の進展が予想される中、ICT（情報通信技術）を効果的に活用し、持続的な経済と社会の発展を実現するため、今年9月に「県民の暮らしを豊かにする千葉県ICT利活用戦略」を策定しました。

本戦略は、「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」を目指し、「あらゆる人が暮らしやすい社会」「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」「生産性の高い産業に支えられる社会」の3つの観点から、ICTの利活用を進めていくこととしており、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問25 あなたは、「あらゆる人が暮らしやすい社会」の具体例として挙げた以下の項目のうち、特にどれが重要だと思いますか。（○は2つまで）

<図表8-1> 「あらゆる人が暮らしやすい社会」について重要なこと（2つまでの複数回答）



「あらゆる人が暮らしやすい社会」の具体例として挙げた6つの項目のうち、特にどれが重要だと思うか聞いたところ、「行政手続のオンライン化等により、いつでもどこからでも行政サービスを利用できる」（45.5%）が4割台半ばで最も高く、以下、「行政機関等が有するデータが利用しやすいかたちで提供されることで、誰もが必要な情報を容易に入手できる」（38.1%）、「交通事故や犯罪に関するデータを地図上にマッピングすることで、誰もが迅速に危険を把握できる」（28.6%）が続く。（図表8-1）

【地域別】

地域別にみると、「行政機関等が有するデータが利用しやすいかたちで提供されることで、誰もが必要な情報を容易に入手できる」は“千葉地域”（44.9%）が4割台半ばで高くなっている。（図表8-2）

【性・年代別】

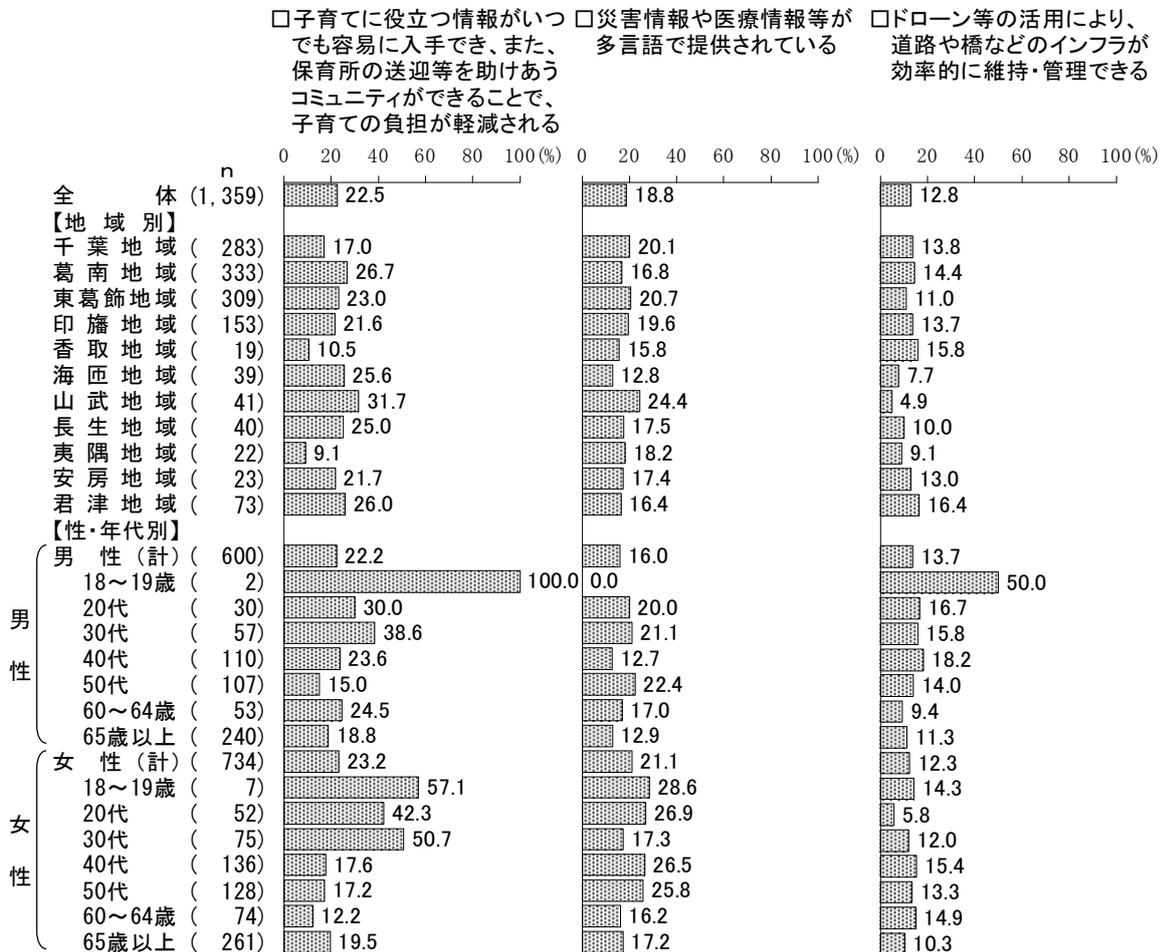
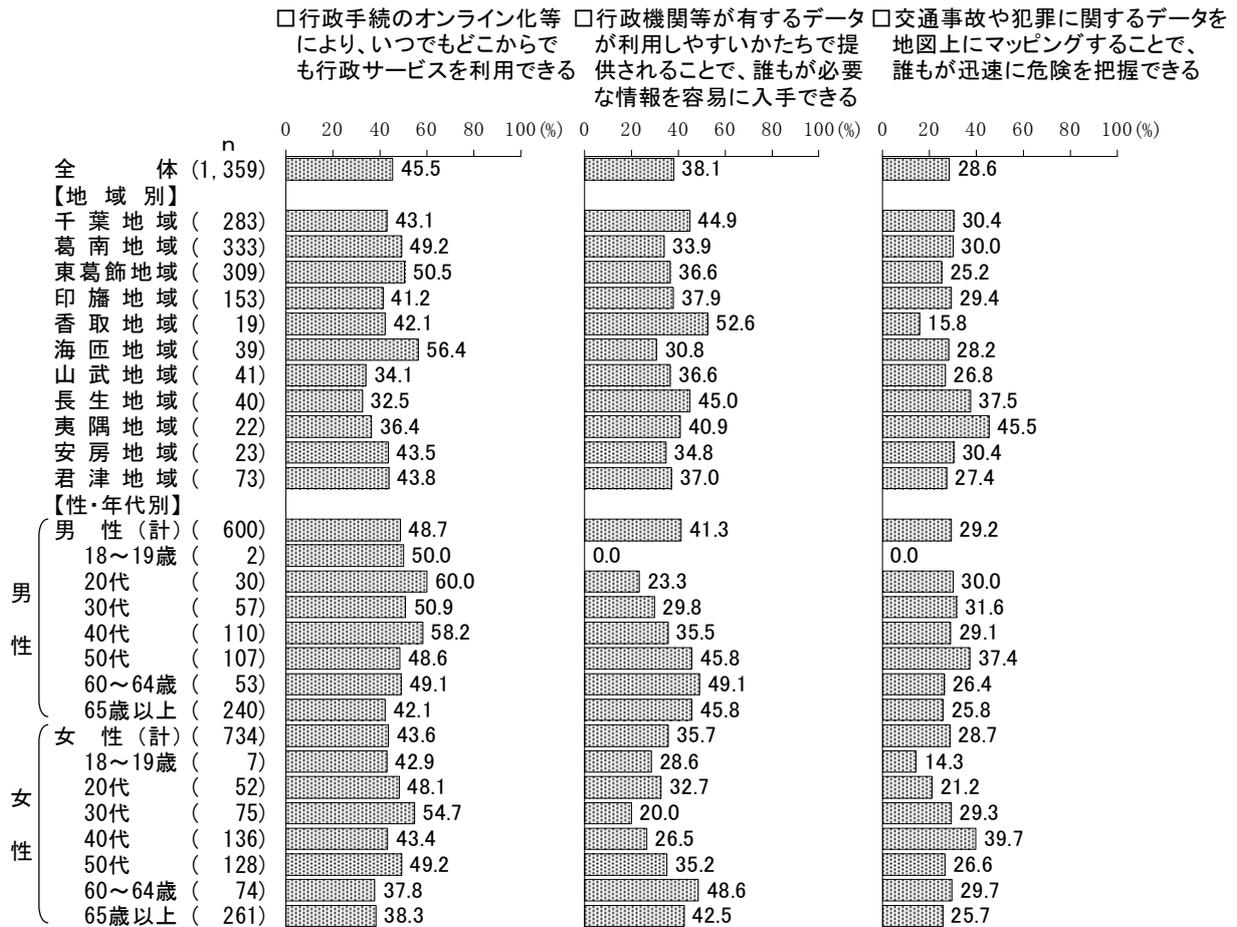
性・年代別にみると、「行政手続のオンライン化等により、いつでもどこからでも行政サービスを利用できる」は男性の40代（58.2%）が約6割で高くなっている。

「行政機関等が有するデータが利用しやすいかたちで提供されることで、誰もが必要な情報を容易に入手できる」は男性の65歳以上（45.8%）が4割台半ばで高くなっている。

「子育てに役立つ情報がいつでも容易に入手でき、また、保育所の送迎等を助けあうコミュニティができることで、子育ての負担が軽減される」は女性の30代（50.7%）が5割、女性の20代（42.3%）が4割を超え、男性の30代（38.6%）が約4割で高くなっている。（図表8-2）

<図表8-2> 「あらゆる人が暮らしやすい社会」について重要なこと（2つまでの複数回答）

／地域別、性・年代別

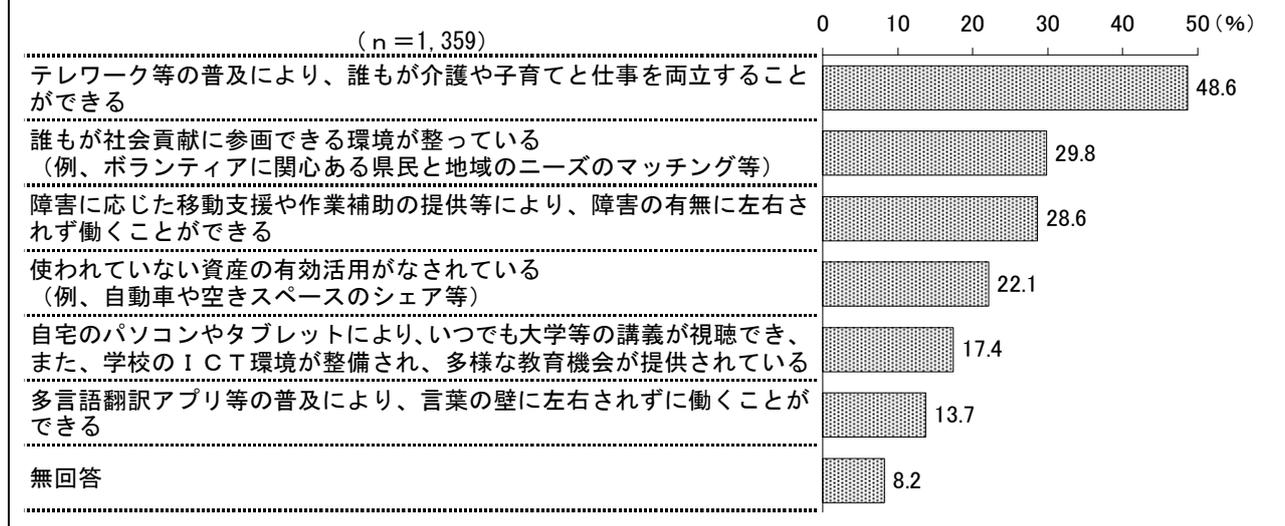


（２）「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」について重要なこと

◇「テレワーク等の普及により、誰もが介護や子育てと仕事を両立することができる」が約５割

問26 あなたは、「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」の具体例として挙げた以下の項目のうち、特にどれが重要だと思いますか。（○は2つまで）

＜図表 8-3＞「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」について重要なこと（2つまでの複数回答）



「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」の具体例として挙げた6つの項目のうち、特にどれが重要だと思うか聞いたところ、「テレワーク等の普及により、誰もが介護や子育てと仕事を両立することができる」(48.6%)が約5割で最も高く、以下、「誰もが社会貢献に参画できる環境が整っている」(29.8%)、「障害に応じた移動支援や作業補助の提供等により、障害の有無に左右されず働くことができる」(28.6%)が続く。(図表8-3)

【地域別】

地域別にみると、「テレワーク等の普及により、誰もが介護や子育てと仕事を両立することができる」は“葛南地域”(57.4%)が約6割で高くなっている。(図表8-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「テレワーク等の普及により、誰もが介護や子育てと仕事を両立することができる」は女性の30代(64.0%)が6割台半ば、女性の40代(59.6%)が約6割で高くなっている。

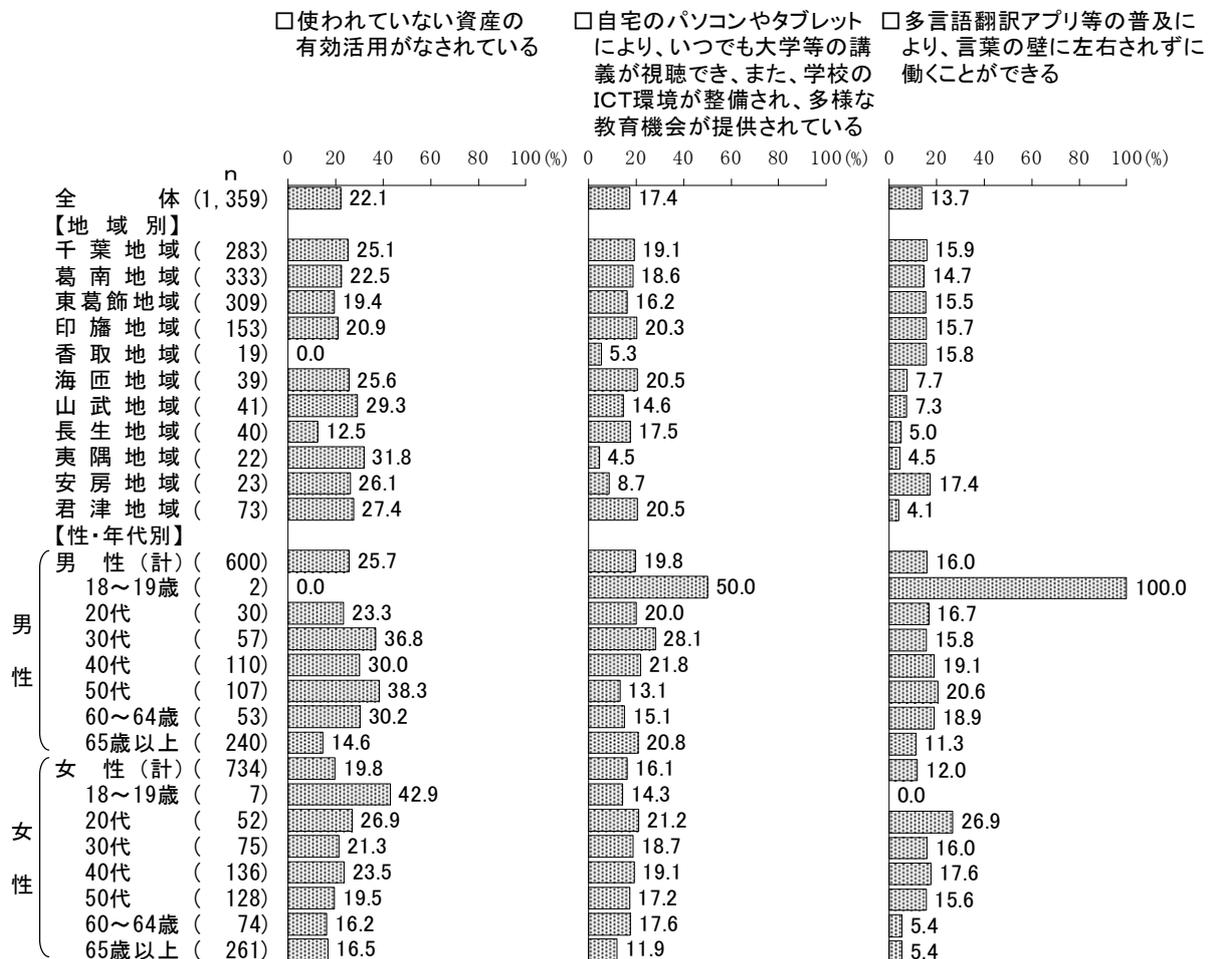
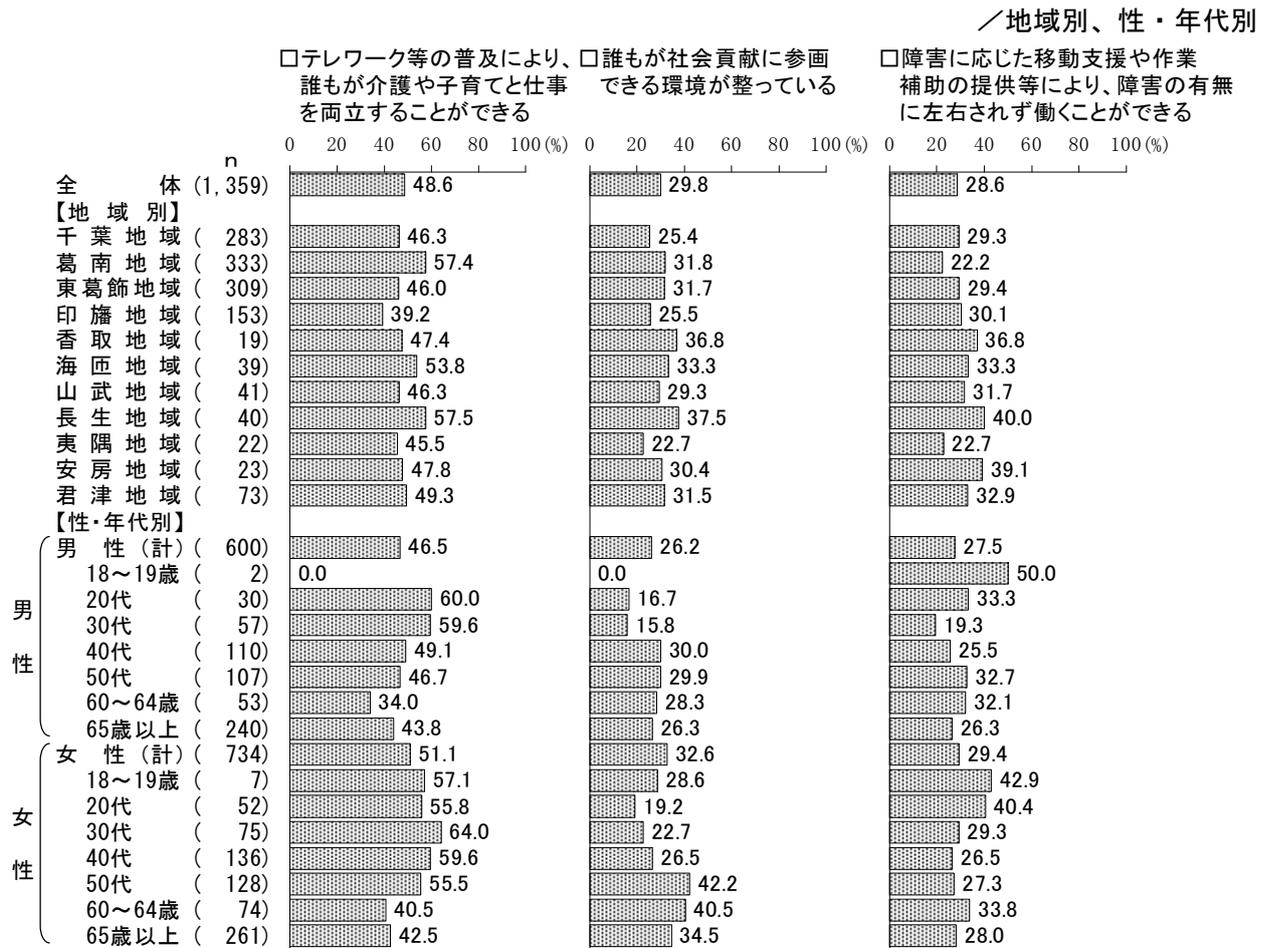
「誰もが社会貢献に参画できる環境が整っている」は女性の50代(42.2%)が4割を超え、女性の60～64歳(40.5%)が4割で高くなっている。

「使われていない資産の有効活用がなされている」は男性の50代(38.3%)が約4割、男性の30代(36.8%)が3割台半ば、男性の40代(30.0%)が3割で高くなっている。

「自宅のパソコンやタブレットにより、いつでも大学等の講義が視聴でき、また、学校のICT環境が整備され、多様な教育機会が提供されている」は男性の30代(28.1%)が約3割で高くなっている。

「多言語翻訳アプリ等の普及により、言葉の壁に左右されず働くことができる」は女性の20代(26.9%)が2割台半ば、男性の50代(20.6%)が2割で高くなっている。(図表8-4)

<図表8-4> 「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」について重要なこと（2つまでの複数回答）

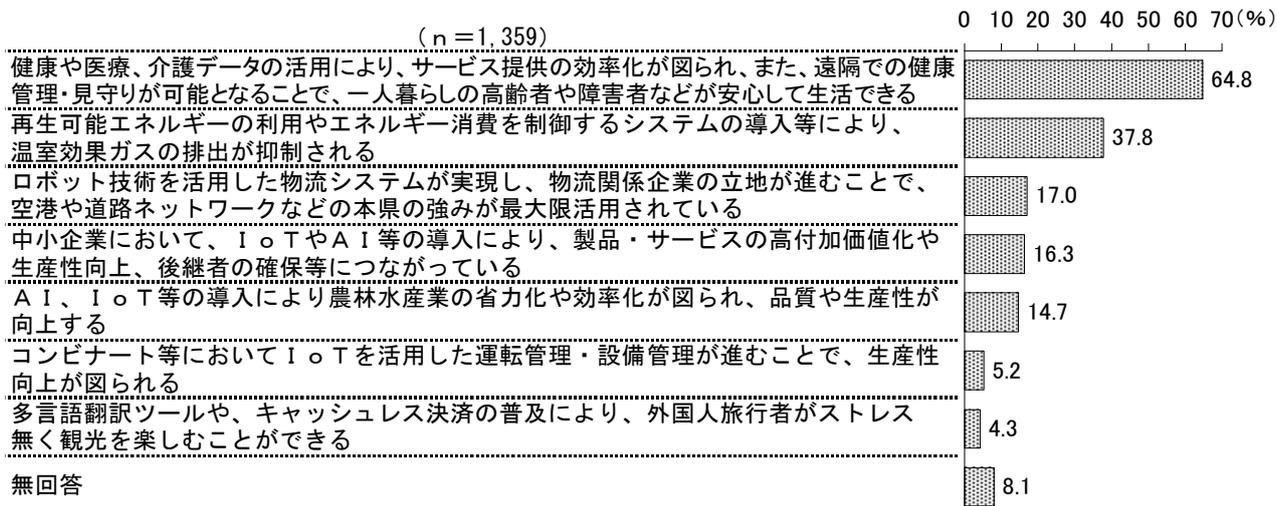


（3）「生産性の高い産業に支えられる社会」について重要なこと

◇「健康や医療、介護データの活用により、サービス提供の効率化が図られ、また、遠隔での健康管理・見守りが可能となることで、一人暮らしの高齢者や障害者などが安心して生活できる」が6割台半ば

問27 あなたは、「生産性の高い産業に支えられる社会」の具体例として挙げた以下の項目のうち、特にどれが重要だと思いますか。（○は2つまで）

＜図表8-5＞「生産性の高い産業に支えられる社会」について重要なこと（2つまでの複数回答）



（※）IoT：インターネット・オブ・シングス(Internet of Things)の略。様々なモノがインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み。

（※）AI：人工知能(Artificial Intelligence)の略。人間の知能をコンピューター上で人工的に構築し、これまで人間が脳内で行ってきた作業を再現する仕組み。

「生産性の高い産業に支えられる社会」の具体例として挙げた7つの項目のうち、特にどれが重要だと思うか聞いたところ、「健康や医療、介護データの活用により、サービス提供の効率化が図られ、また、遠隔での健康管理・見守りが可能となることで、一人暮らしの高齢者や障害者などが安心して生活できる」(64.8%)が6割台半ばで最も高く、以下、「再生可能エネルギーの利用やエネルギー消費を制御するシステムの導入等により、温室効果ガスの排出が抑制される」(37.8%)、「ロボット技術を活用した物流システムが実現し、物流関係企業の立地が進むことで、空港や道路ネットワークなどの本県の強みが最大限活用されている」(17.0%)が続く。(図表8-5)

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表8-6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「再生可能エネルギーの利用やエネルギー消費を制御するシステムの導入等により、温室効果ガスの排出が抑制される」は女性の50代(47.7%)が約5割、女性の40代(46.3%)が4割台半ばで高くなっている。

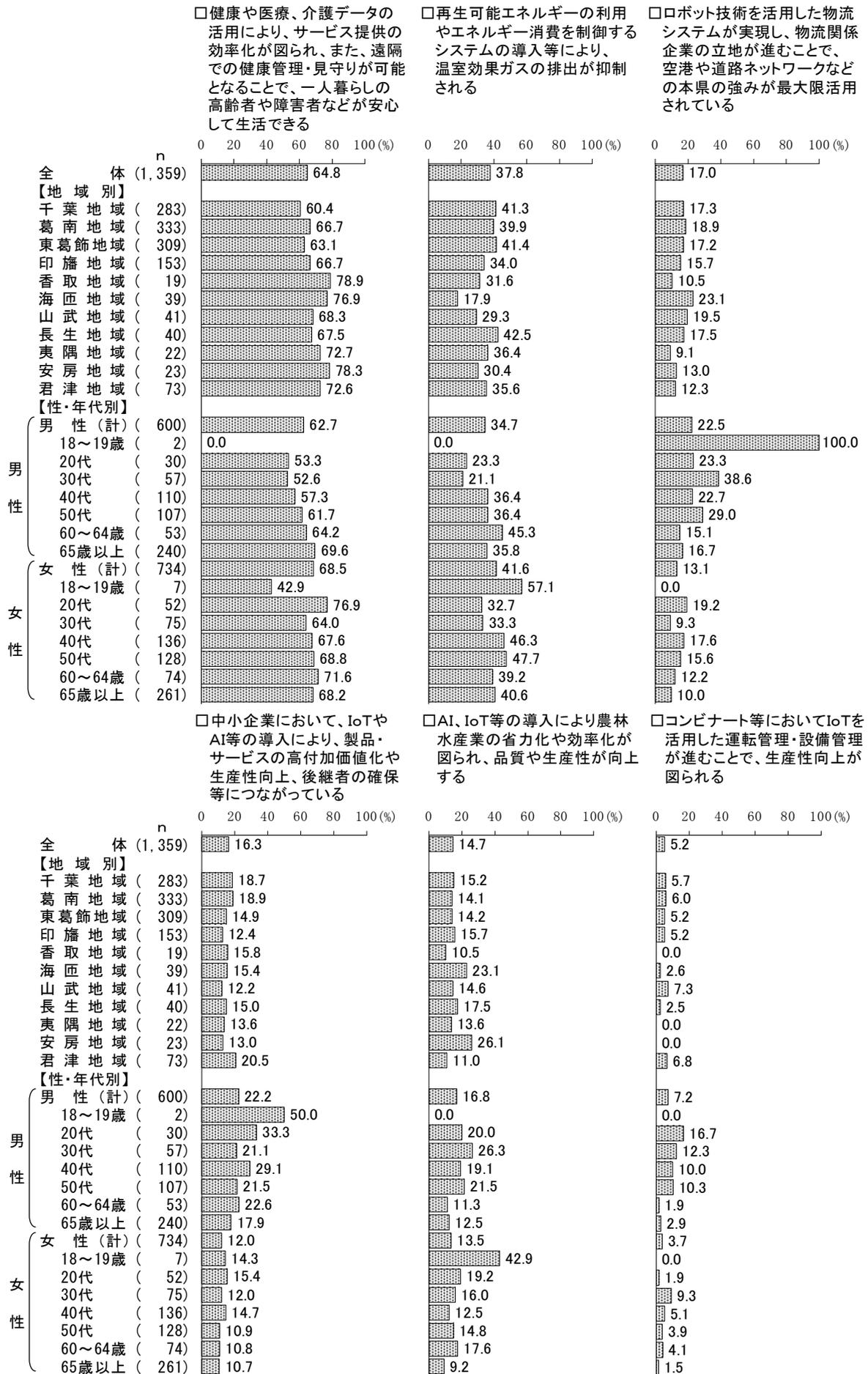
「ロボット技術を活用した物流システムが実現し、物流関係企業の立地が進むことで、空港や道路ネットワークなどの本県の強みが最大限活用されている」は男性の30代(38.6%)が約4割、男性の50代(29.0%)が約3割で高くなっている。

「中小企業において、IoTやAI等の導入により、製品・サービスの高付加価値化や生産性向上、後継者の確保等につながっている」は男性の20代(33.3%)が3割を超え、男性の40代(29.1%)が約3割で高くなっている。

「AI、IoT等の導入により農林水産業の省力化や効率化が図られ、品質や生産性が向上する」は男性の30代(26.3%)が2割台半ば、男性の50代(21.5%)が2割を超えて高くなっている。

(図表8-6)

＜図表8－6＞「生産性の高い産業に支えられる社会」について重要なこと（2つまでの複数回答）
 ／地域別、性・年代別（上位6項目）

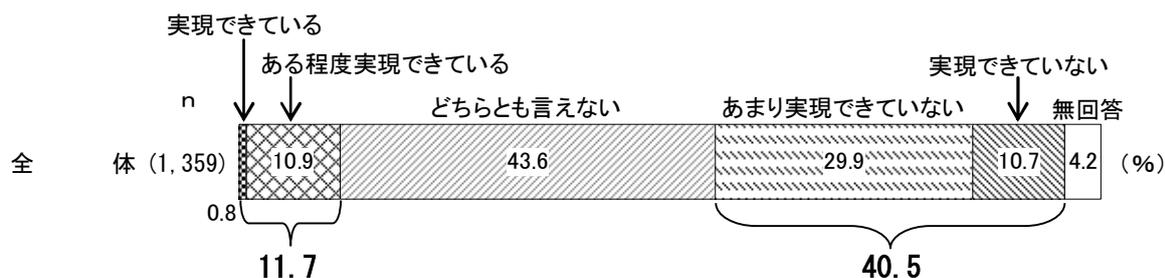


（４）「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」の実現度

◇『実現できている（計）』が1割を超える

問28 あなたは、「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」がどの程度、実現できていると思いますか。（○は1つ）

<図表8-7>「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」の実現度



「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」がどの程度実現できていると思うか聞いたところ、「実現できている」（0.8%）と「ある程度実現できている」（10.9%）を合わせた『実現できている（計）』（11.7%）が1割を超えている。

一方、「どちらとも言えない」（43.6%）は4割台半ばとなっており、「あまり実現できていない」（29.9%）と「実現できていない」（10.7%）を合わせた『実現できていない（計）』（40.5%）は4割となっている。（図表8-7）

【地域別】

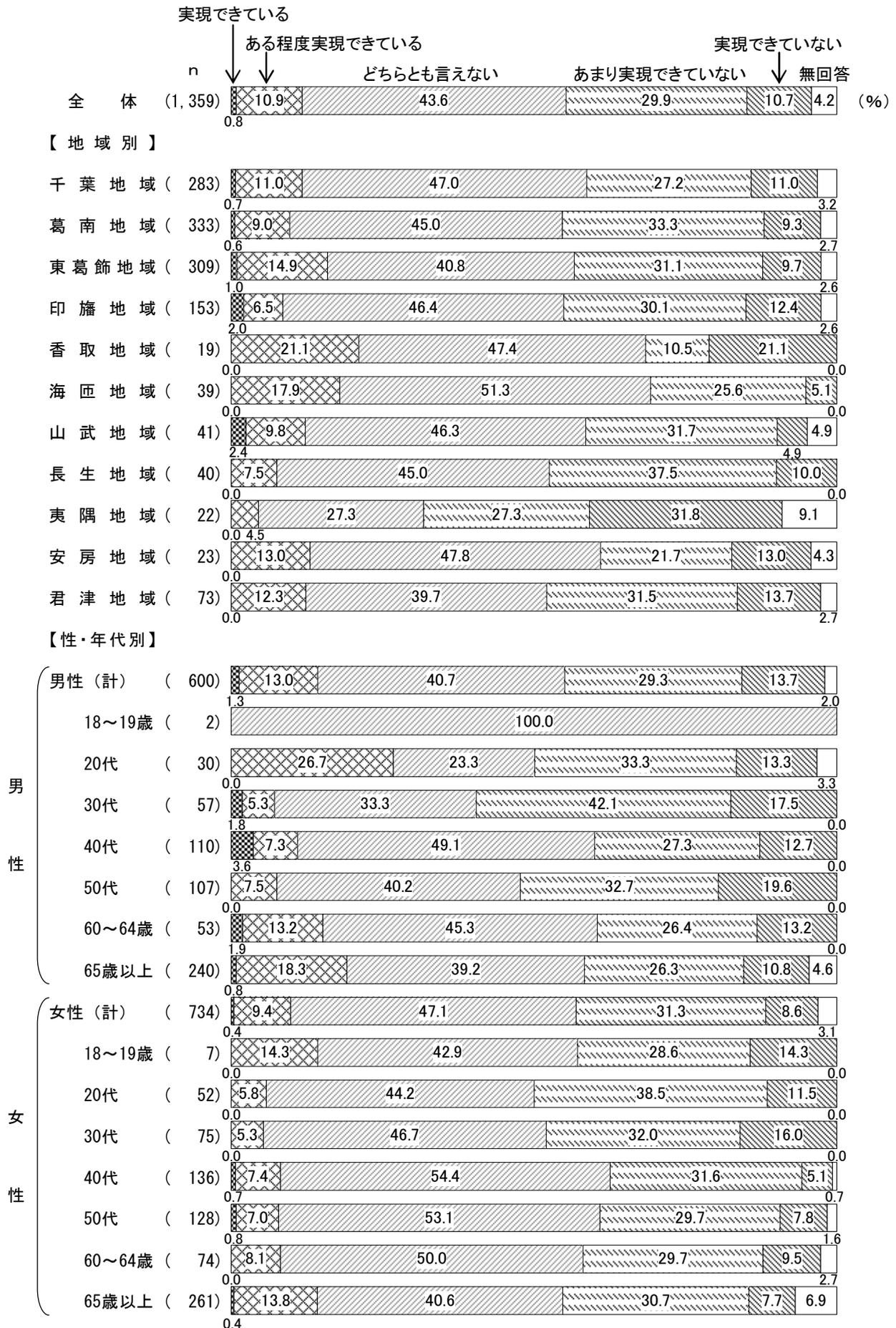
地域別にみると、「実現できていない」は“夷隅地域”（31.8%）が3割を超えて高くなっている。（図表8-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「ある程度実現できている」は男性の20代（26.7%）が2割台半ばで高くなっている。

一方、「あまり実現できていない」は男性の30代（42.1%）が4割を超えて高くなっている。（図表8-8）

＜図表8-8＞「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」の実現度／地域別、性・年代別



このほかに、「ICT利活用の推進について」やここまでの質問（問25～問28）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、126人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■ 「ICT利活用の推進について」の自由回答（抜粋）

- ICTを理解できない一定層の人々は取り残されるのではないか。何でもAIにやらせたり、セルフレジでやらされたりすることで、人とのつながりは希薄になり、雇用も減るのでは。ICTを利活用するのであれば、犯罪防止につながる使い方をしてほしい。昨今多いわいせつ事件が減るような活用法を考えてほしい。（女性、40代、葛南地域）
- ロボット技術が福祉のすみずみまで活かされてほしい。（女性、65歳以上、葛南地域）
- お年寄りインターネットはよくわからないと言う人が多いので、みんながわかりやすい様な形での情報も発してほしいと思う。（女性、65歳以上、君津地域）
- 技術が進歩して様々な場所でコンピューターが使われていて、頭の古い人間はついていけない事が多々ある。パソコンやスマートフォン、タブレット等、高齢者でも使える様に学べる機会が地域で多くあるといい。わからない人にやさしい社会であってほしい。（女性、50代、安房地域）
- 各種災害発生時、インフラへの損害・ダメージ等の情報が容易に入手できるようになると便利だと思う。（男性、40代、山武地域）
- AIなどの高度な技術よりも、手続きのオンライン化、自治体同士の情報連携など市民が日常的に利用するサービスの効率化に取り組んでください。（女性、30代、東葛飾地域）
- 技術の発達により、人と機械が共存できる社会を望んでいます。（男性、20代、千葉地域）
- 孤立しがちな生活に生きがいを見出すことが重要。自分で選び主体的に取り組むこと、誰かの助けや安心に貢献できていると実感できることが生きがいであり幸福である。そのような実例を挙げて具体的に紹介していただきたい。（男性、65歳以上、香取地域）
- ICTをインフラとして整備しても、自己実現（生産性の向上や社会貢献）は、やはり一人一人の心がけではないでしょうか。ただICTにより本人が意識せずとも健康管理等が出来たら素晴らしいですね。（男性、50代、印旛地域）